



# 大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学  
教職支援センター

第129号

2022. 3. 1

## 教師になる

—教職支援センターを大いに活用しよう—

大谷大学 教職支援センター副センター長 林 正幸

「子どもが好き!」「子どもと共に伸びていきたい」  
「子どもたちに学ぶ大切さを教えたい」「一人一人の思  
いを大切にできる教師になりたい」「小・中・高で出会っ  
た先生にあこがれる」「自分がしんどい時にあの先生に  
助けてもらった」「あんな先生に私もなりたいたい」

「教師になりたい」「教師を目指す」そういう思いで  
大学生を送っている皆さん。大学での勉強、取組は、  
教師になるための基礎固めをしているところです。

そして、その基礎固めの後、教師になるためには教員  
採用選考試験があります。その試験を突破することだけ  
が目的ではありませんが、第一関門であることには間違  
いありません。教員採用試験はご存知でしょうが、筆記  
試験・面接試験・実技試験など自治体によって違いはあ  
りますが、多様な試験になってきています。

大谷大学にはもちろん知っているとは思いますが、教  
職を目指す皆さんのために『教職支援センター』という  
すばらしいところがあります。この充実した『教職支援  
センター』を大いに活用してください。

『教職支援センター』では1年間に様々な取組がされ  
ています。

まず教職を目指すにあたっての科目履修や教育実習・  
学校ボランティアの相談、様々な手続きや運営を担当さ  
れる事務部門があります。

そして、教職アドバイザーとして4名の先生がおられ  
ます。元校長先生経験など豊富な現場経験や教育委員会  
勤務時の採用担当者としての経験から学生の皆さんに丁  
寧な指導・助言をさせていただきます。

小論文指導・添削、自治体別願書記入説明会、個人面  
接練習、集団面接・集団討議の指導、模擬授業の練習・  
指導などその他教員採用試験に関するあらゆる相談に答  
えてくださっています。また休業時にはコロナ禍で大学  
に登校しにくい学生に向け、オンライン指導もされまし  
た。

今年度は2年生と1年生を対象に  
「教職学習会」をそれぞれ4回ずつ  
計8回行われました。

《教職とはどのようなものか》  
教員の主な職務、心構え  
《教員採用試験の概要を知る》  
時期、試験内容、自治体別の特徴  
《教員になるためにいつ頃、どのよう

に準備していくか》

《今できること、やっていくこと》

学校ボランティアで学ぶ、自己分析、情報収集、筆記  
試験対策、面接試験対策、小論文対策、模擬授業対策

《大谷大学卒業生の先輩から学ぶ》

学校現場の様子をインタビューして生の声を聞く

などの学習会が行われました。コロナ禍でなかなか伝え  
られていなかった部分をはじめ、2年生・1年生の皆さん  
にとっては教職支援センターが身近に感じられたことだ  
と思います。これを機会に普段4・5号館に来ることの少  
ない文学部、社会学部、国際学部の皆さんもあまり構え  
ず気軽に教職支援センターに足を運んでください。



教職に向けてこれだけ手厚い取組がされている大学と  
いうのはそんなにないと思います。本学のこの手厚い取  
組を学生の皆さんは有効に活用して将来の夢に近づいて  
いってほしいと思います。

他にも教職支援センターには自治体ごとの参考書や問  
題集、一般教養・教職教養、専門科目の参考書や問題集  
が揃っています。また自習室があって、その場でそれら  
の図書を使って勉強ができたり、同じ教員採用試験を目  
指す仲間として情報交換やつながりがつくれたりしま  
す。

今、大学で行っている学びというのは長い人生から考  
えるとほんのわずかな部分かと思えます。しかし、自分  
がこれから取り組んでいこうとする事のスタートでもあ  
ります。

小学校・中学校・高校では広範囲、全般的で基礎的な  
学習をしてきました。そして大学では自分の興味のある  
学問を、そして自分の将来につながる学問について前向  
きに取り組んできたことと思えます。皆が同じ科目を学  
習するのではなく、自分にとって興味があり、主体的に  
自分の目指す学問に取り組めることは大学時代のすばら  
しいことだと思います。これら大学時代の学びを学問へ  
のきっかけとして、今後教員として、社会人として学び  
続け、それぞれの課題、問題に向き合っただけの実践につ  
なげ、児童・生徒たちと共に伸びていってください。



# 《こんな先生になります》

( ) 採用内定自治体・校種

## 《子どもの心に寄り添える先生に》

教育学科 静野 有莉 (京都府・小学校)



ボランティアや教育実習を通して、先生は教えることばかりでなく、子どもたちから教えてもらうこと学ぶことがたくさんあると実感した。上手くいかず悩んだ時、自信がなくなった時、いつも支えてくれたのは子どもたちと先生方であった。

これまで私がもらってきたたくさんの優しさに対する感謝の気持ちを忘れず、一人の人間として子どもたちの心に寄り添い、そっと背中を押していけるようなあたたかい先生になりたい。

## 《子どもの成長を共に喜べる先生に》

教育学科 中村 侑 (京都府・小学校)



教育実習や教師力養成講座を通して、子どもたち一人ひとりが成長する姿を見ることができた。子どもたちは止まることなく成長する。そして、成長した姿を嬉々として見せてくれる。そんな子どもたちを一番身近で見ることができるのが、先生の最高の喜びである。私は、一人ひとりとしっかり向き合い、良さを引き出しながら、子どもたちの成長と一緒に喜ぶことができる先生になりたい。また、互いに褒め合うことで高め合うことができる、「プラス言葉」で溢れた学級づくりを行いたい。

## 《子どもの気持ちに寄り添う先生に》

教育学科 杉森 七夕 (京都市・小学校)



私は、これまでにたくさんの多様な子どもと出会ってきた。私はそんな子ども全員が輝ける学級をつくりたい。日頃から子どもとの関わりや対話を大切にし、一人ひとりのよさや可能性を引き出すことを心掛ける。そのためには、子どもを信じ続け、個がもつ能力を存分に発揮できるための授業力、指導力が求められる。

学生時代に培った子どもに対する「愛情」と、子どもを預かり育てる「責任感」と、教職に対する「熱意」を忘れずに、一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添う先生になりたい。

## 《出逢えてよかったと思われる先生に》

教育学科 新部 愛莉 (京都市・小学校)



「新部先生と出逢えてよかった」と一人でも多くの人に言ってもらえる先生、人間になることを目指す。そのために、日々努力し成長し続ける姿勢を忘れないこと、そして先生として一人ひとりの子どもに我が子のように接すること、小さな成長でも共に心の底から喜び合うことを大切にする。

先生としての責任と自覚をもち、毎日笑顔で元気よく、子どもとともに歩いていく決意である。

## 《わかりやすい授業ができる先生に》

教育学科 藤戸 梨子 (京都市・小学校)



私は、子どもたちが「わかった」「できた」という学ぶ喜びを感じられるような授業づくりのできる先生になりたい。学校ボランティアや教育実習を通して、わかる授業をすることは、子どもたちが意欲的に授業に取り組むことができたり、学校生活が楽しく感じられたりすることにつながると実感した。

子どものつまずきをしっかり予想し、気掛かりな子どもたちの置かれている状況から出発して、全ての子どもに届くような授業ができるよう、自分自身も常に学び続け、精一杯努力していきたい。

## 《学び続ける先生に》

教育学科 上田 杏香 (滋賀県・小学校)



長年の夢が叶い、いよいよ春から小学校の先生になる。私は、これがゴールではなく、これからも学び続けられる先生になりたい。私は大学で友達と採用試験の勉強を一緒にすることが多く、自分にはない友達の素敵な話し方や考え方からたくさんのことを学ぶことができた。人から学ぶことや一緒に学ぶことの良さに気付いたのである。4月からは、毎日クラスの子どもたちと過ごす中で、自身の授業力を高め、子どもの気付きや発見から一緒に学び続けられる先生になる。

## 《自分自身が楽しめる先生に》

教育学科 川西 紗矢佳 (滋賀県・小学校)



私は子どもたちが楽しいと思える学校生活を送れるようにし、自分自身も楽しんで日々を過ごせるような先生になりたい。そのためには、朝の挨拶を元気よくするところから始め、一人ひとりの日々の様子をただ見るだけでなく、常に子どもの声に耳を傾けられるようにしていきたい。また困ったときは一人で抱え込まず、先輩の先生方に相談し、元気に毎日を迎えられるようにしたい。

## 《チャレンジ精神を育む先生に》

教育学科 黄瀬 優希 (滋賀県・小学校)



私は子どもたちにチャレンジ精神を育むことができる先生を目指している。新しいことに挑戦する楽しみや、それができるようになった時の喜びを子どもたちにたくさん体験してほしいと思っている。そのために必要な先生としての声掛けの工夫や失敗しても大丈夫と思える場づくりに努めていく。そして「やってみたい」「できた」が溢れる学級をつくっていきたい。また、子どもたちと共に私自身も様々なことに挑戦し、成長し続けていきたい。

## 《成長し続けられる先生に》

教育学科 中野 翔太 (滋賀県・小学校)



私は子どもと共に成長し続けられる先生になる。4月からは初めてのことばかりで、不安に思うこともたくさんあるが、子どもたちと関われることを思うと、期待に胸が膨らむ心境である。子どもと常に関わり、授業や学級経営を行い、自分の指導を常にフィードバックすることで、日々成長し続けられる教師になる。

## 《子どもの良さを認められる先生に》

教育学科 福壽 歩奈美 (滋賀県・小学校)



私は子どもの良さを見つけ、その良さを認められる先生になる。私は教育実習を通して、子どもは一人ひとり違っており、その良さも様々であることを実感した。「Aさんは、困っている友達にこうすると良いよといつも優しく教えているね。」「Bさんは、何度も書いて漢字の練習をしたんだね。よく頑張ったね。」などと子どもの頑張りや良さを認めることで、自分に自信を持てる子どもを育てていきたい。

## 《話をしっかり聞ける先生に》

教育学科 柘谷 乃愛 (滋賀県・小学校)



私は一人ひとりの子どもの話をしっかり聞ける先生になる。話を聞く中で、その子の感情を読み取り、可能性を引き出せるような語り掛けをし、子どもがそれぞれの方法で輝けるようにしたい。そして、一人ひとりが思いやりを持ち、考えて行動し、教室に入るとなんだかほっとするような、いるだけで安心できる学級を作りたい。

どんな子どもたちと出会い、どんな学級を作っていけるのか、今からとても楽しみである。

## 《明るく笑顔貫く先生に》

教育学科 村中 洸太 (鳥取県・小学校)



「笑顔・元気・優しさ」、これら三つが揃って子どもたちが信頼してくれる先生になれるのだと思う。「笑顔」、子どもたちの前では笑顔を絶やさないように。安心できる大人であること、子どもの話を逃さず聞く傾聴の姿勢を笑顔で表現。「元気」、先生が元気でなければ学級に活気は出ない。元気は成長に必要な大きな材料である。「優しさ」、子どもたちを受容する姿勢を持ち続ける。たくさん褒めて自分に自信を持てる子どもたちを育てたい。明るく笑顔貫き、全力で子どもたちの成長を手助けできる先生になる。

## 《「当たり前」を押し付けない先生に》

教育学科 高穂 純那 (大阪府・小学校)



私は自分の「当たり前」を他人に押し付けないということを大切にした先生になりたいと思う。そして本人の意思や考えから、その人を知る努力を続けていきたい。これは子どもだけに限らず保護者や学校関係者にも同様に、自分の視野を広げるためにも常に意識したいと思う。

また、コロナ禍でコミュニケーションが取りにくい中で学んだからこそ「ありがとう」「ごめんなさい」を大切にした先生になりたいと思う。

## 《信頼される先生に》

教育学科 春末 京香 (大分県・小学校)



私は、信頼される先生になりたい。子どもの頃のことを思い出すと、その時々で抱える不安や悩みがあった。しかし、心から頼れる先生がたった一人いるだけで、自分の抱えるものが安心感へと変化し、学校生活が苦でなくなる瞬間があった。このような存在に先生がなれた時、子どもにとっての新たな道標となれたとも言えるのではないだろうか。

大学で培った私の傾聴力を基に、私は信頼される先生になれるように日々努力していく。

## 《子どもたちの可能性を引き出せる先生に》

教育学科 森 如見 (富山県・小学校)



私は、毎日様々な場面で子どもたち一人ひとりの良い所や頑張りを沢山見つけ、褒めることのできる先生になりたい。そして子どもたち一人ひとりが、自分自身や友達の良い所に気付き、互いに尊重し合い、思いやりのある温かい学級をつくりたいと考える。

日々の授業では、子どもたちが自分の考え、分かったこと、分からないことを自由に発言でき、子どもが主体となって進められる授業づくりを目指していきたい。常に学ぶ姿勢を忘れず、子どもたちと一緒に自分自身も成長できる存在でありたい。

## 《子どもに寄り添える先生に》

教育学科 甘城 唯真 (福岡県・小学校)



子どもに寄り添えるような先生になりたい。福岡での教育実習ではコロナの影響を受け自尊感情が低くなっている子どもたちを見てきた。その中で日頃の休み時間などでの何気ない会話がとても大切だと思った。

さらに子ども理解に努め子どもに信頼されるような先生になりたいとも考えている。また、目の前の課題にしっかりと向き合い、どんなことにも挫けないような強い子どもを育てていきたい。

## 《子どもの成長を助けられる先生に》

教育学科 瀬古 うた（横浜市・小学校）



私はこれまで総合育成支援員をさせていただいた中で、主に支援を必要とする子どもたちと関わってきた。自信のない子どもが多いなか、分からなかったことが分かったり、新しいことができたりした瞬間に立ち会えた時、私自身もとても嬉しい気持ちになった。「できる」「できた」や「楽しい」の力は、子どもの成長を助けるとても大切なものだと感じた。どうしたらできるようになるか、楽しくなるか、子どもひ一人ひとりと丁寧に向き合い、一緒に考え、子どもの成長を助けられるような先生を私は目指す。

## 《信頼される先生に》

教育学科 藍畑 介志（和歌山県・小学校）



私は生まれ育った和歌山県で、子どもからも他の教職員の方々からも信頼される先生になりたいと考えている。大学4年間での学びや小学校ボランティア、教育実習を通して、日々の授業や学級経営など、全ての教育活動において、子どもとの、そして教職員との信頼関係が必要であることを理解した。

当然不安もあるが、大学で学んだことや共に頑張った仲間たちを思い出しながら、持ち前の明るさを前面に出して信頼関係を築いていく。

## 《子どもたちが伝えたくなる先生に》

教育学科 高松 花帆（和歌山県・小学校）



教育実習やボランティアを通して、子どもたちが生き生きと過ごしているのは、先生と子どもたちの間に信頼関係があるからだと学んだ。このことから、私は子どもたちが今日あったことを伝えたくなるような先生になりたいと考える。

そのために、学校現場では一人ひとりと一日一回は話す機会をつくることを目標にし、全ての子どもと真剣に向き合っていきたい。そして、みんなが過ごしやすいクラスをつくっていきたい。

## 《言葉を大切にする先生に》

哲学科 江良 友佑（富山県・中学校高等学校：国語）



大谷大学での授業や実習で言葉の大切さに気付いた。哲学において、論理的に考えそれを筋道立てて人に説明する際には、正しい言葉が必要になると学んだ。教育の場でも通じることであると思う。様々な言葉を学び、自分のものにして人間関係を築いていくことは、教育に携わる者として指導すると同時に、私自身も実践しなければならないことである。

国語の授業を中心に、生徒とともに言葉を大切にする対話を実践し、互いに信頼できるような先生・人間になりたい。

## 《生徒を理解し共感できる先生に》

文学科 池中 壮摩（神奈川県・中学校：国語）



私の目指す教師像は生徒を深く理解し共感できる教師である。生徒の立場に立って支えになれる教師を目指したいと考えている。そもそも私が先生を志した理由もそこにあり、初心を忘れず生徒たちの良き教育者であり味方になりたいと思う。思春期の様々な悩みや不安を持つ生徒たちを支え、応援し続けることで先生への信頼が生まれると私は考えている。先生と生徒との間に確かな信頼関係を構築し、日々生徒を理解する姿勢を持ち続け、生徒たちの理解者であり味方である先生を目指したいと思う。

## 《学び続ける先生に》

国際文化学科 田中 祐希（奈良県・中学校：英語）



私は、日々学ぶことを忘れず、生徒と共に自分自身も成長し続けることができる先生になる。新規採用者として、多くの先生方から学ぶだけでなく、生徒たちとの関わりの中で、彼らの豊かな考えからも多く学び自分の視野を広げていきたい。また、生徒たちの「学びに向かう力」を育てるために、彼らになぜ自分が英語を学ぶのか目標を持たせ学びに積極的になることができる環境を整えたいと考えている。常に変化し続ける社会、その社会を担う生徒たちに私は責任を持って関わる。

## 《生徒と真剣に向き合う先生に》

文学科 鈴木 理花（大阪府・高等学校：国語）



私は生徒一人ひとりと真剣に向き合う教師になれるように努力し続けようと思う。教師になるまでの道のりは簡単ではなかったが、これからが自分の教師人生の始まりである。生徒の自立性と創造力を育成することを目標として、日々変化し続ける一人ひとりに寄り添い、生徒とともに自分自身も成長したい。私は自分の人生に自分で意味を見出したいという思いで教師を目指したので、これからも自分の思いを忘れずに生きていこうと思う。

## 令和4年度 公立学校教員採用試験 合格者人数(延べ数)

小学校	19人	京都府2, 京都市3, 滋賀県6 和歌山県2, 大阪府1, 大分県1 富山県1, 福岡県1, 横浜市1, 鳥取県1
中学校	4人	神奈川県(国語)1, 富山県(国語)1 滋賀県(国語)1, 奈良県(英語)1
高等学校	2人	大阪府(国語)2

## 教職をめざす皆さんへ

## 教職支援センター アドバイザーから

## 4年生の皆さんへ

自らの夢を大きく膨らませて、社会に歩み出そうとしている4年生の皆さん。新年度から教員や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など、進路は様々ですが、決めた道を力強く歩んで行ってくれることを願います。コロナ禍が続き、先が見通せない中、希望と不安が入り混じる気持ちでしょうが、まずはこの4月からの行動すべきことをイメージしながら、一日一日を大切にしてください。



## 3年生の皆さんへ

教員採用試験に向けて努力を重ねている3年生の皆さん。昨秋に実施した小論文セミナーには多くの皆さんが参加して論文作成に挑みました。その熱意はアドバイザーにも伝わり、とても力強く感じました。センターではたくさんの論文題を用意しています。春休み中も継続して論文練習に取り組みましょう。



さて、いよいよ採用試験まで数か月となりました。今後は、試験までの日々をどのように過ごしていくかが、大きなポイントです。多くの自治体では6月下旬に1次試験が実施されます。自分の教育観を明確にさせながら、筆記試験対策と並行して論文や面接などの表現対策を積み重ねていきましょう。またそうした試験対策と共に自らの人間性を育む活動も大切です。限られた時間を有効に使って計画的に進めていってください。

教職支援センターは、皆さんの夢の実現をお手伝いします。教員採用試験に向けての支援を惜しみません。センターでは大量の情報と経験豊富なアドバイザーが皆さんを待っています。気軽にセンターを訪ねてください。

## 1年生、2年生の皆さんへ

まだ皆さんは実感がありませんが、教員採用試験はすぐにやってきます。今は、様々な学びと経験を積んで「自分磨き」を重ねる時期ではありますが、現状を知ること、情報をもつことは常に大切です。教職支援アドバイザーは、1、2年生向けの「教職学習会」を行ったり、教職に関する様々な相談に乗ったりしています。遠慮なくアドバイザーに声をかけてください。

## 教職アドバイザーの在室時間（昼休み13：00～14：00は除く）

	月	火	水	木	金
須川			12：00～17：00	12：00～17：00	12：00～17：00
桂	10：30～16：00	10：30～16：00	10：30～16：00	10：30～16：00	
美濃部	12：00～17：00		12：00～17：00		12：00～17：00
佐藤	12：00～17：00	12：00～17：00	12：00～17：00		

※ アドバイザーは4号館1階の教職支援センター事務室で皆さんを待っています。教職に関わることであればどんな些細なことでも相談に応じます。遠慮なく訪ねてきてください！